

国語を正しく美しくする努力

まづ「国語を正しく美しくする努力をしよう」といふことを訴へたいと思ひます。国語、つまり日本語によって日本人は作られますので、国語教育といふのは、日本人を日本人たらしめる教育に他なりません。と言ひます訳は、日本人とは、日本語で物を見、日本語で考へる人間のことだからです。考へる場合には勿論言葉を使ひますが、人がものを見る場合でも、言葉を通して見る時に、それが意識となり、認識となるのです。これには次のやうな実験があります。言葉を覚え始めた頃の何人かの子供に、例へば黄色い縞のある蝶を観察させます。さうして何時間か後に、その蝶を他の沢山の蝶の中に入れて、その中からその蝶を見付けさせる、といふ実験です。正しく言ひ当てられる子供は必ず「黄色」といふ言葉、「縞」といふ言葉を知つてゐる子供に限られます。黄色とか縞とかいふ言葉を知らない子供には当てることはできません。それは言葉を知らなければ、黄色い色や縞模様が目に入つてもそれを意識することができないからです。つまり、言葉を通して見なければ、いくらよく見ても認識にならないのです。さういふわけで言葉が豊かであれ

ばあるほど、物の見方も豊かになりますので、豊かな人間になるためにはどうしても豊かな日本語を身につけなければなりませんし、美しい心を持つためには美しい言葉を知らなければなりません。ここに国語教育の意義があると思ひます。それで私はまづ国語を正しく美しくする努力をしなければならないと思ふわけです。